

## 南京町（なんきんまち）元町通1丁目、栄町通1丁目一帯



神戸の中華街・南京町の歴史は、1868（明治元）年の神戸港開港直後と言われ、清国（当時の中国）が修好通商条約を結んでいなかったため、中国人は政府が定めた外国人居留地の西側（元町の南辺り）に集まって住むようになったのである。それが現在の南京町へと発展していったのである。今では中華料理店をはじめ多数の店舗が軒をつらね、神戸の観光スポットの一つになった。毎年旧歴にあわせて春節祭や中秋節などの行事が行われ、中国の伝統芸能を楽しむことができる。

●「元町通（もともちどおり）・元町高架通（もともちこうかどおり）」の由来

旧神戸村、ニツ茶屋村、走水（はしうど）村をあわせた旧神戸町の西国街道沿いの中心部で、元々の土地だということから名付けられたという。

●「栄町通（さかえまちどおり）」の由来

明治のはじめ、西国街道の南に広い道路をつけたが、それが完成したときによく栄える町にということで「栄町」と名付けた。